

Drug Information

No.434

ルミエール病院 薬剤科
医薬品情報管理室 発行

◆医薬品・医療機器等安全性情報 No.408

使用上の注意改訂のお知らせ(下線部分)

・経口抗真菌剤

イトリゾール内用液1%

【重大な副作用】

偽アルドステロン症

低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等があらわれることがある。

◆陳旧化に伴う用時購入品目への切り替え

陳旧化に伴い、前立腺がんを使用するリュープリンSR注射用キット 11.25mg(3か月製剤)を用時購入品目へ切り替えします。

●LH-RH 誘導体 マイクロカプセル型徐放性製剤:リュープリンSR注射用キット 11.25mg

◆一般診断用精製ツベルクリンの廃止

採用時の結核健診がツベルクリン反応検査からクオンティフェロン検査への変更となることから、廃止となります。

◆限定出荷

他社製品の影響により、下記3品目が限定出荷になっています。

●K アスパルテート製剤:アスパラカリウム散50%


●パーキンソン症候群治療剤:アキネトン錠1mg

●消化管運動機能改善剤:モサプリドクエン酸塩錠5mg

◆新型コロナウイルス感染症の令和6年4月からの治療薬の費用について

令和6年4月から公費負担は終了し、医療費の自己負担割合に応じた窓口負担になります。
これにより、ラゲブリオカプセルを外来で使用する場合、1日2回5日分の1処方あたりの費用約9万円のうち、3割負担であれば、約2万8000円の自己負担となります。
また、療養病棟、介護医療院、老健施設など入院・入所で使用する場合、当面の間、抗ウイルス剤とみなして、これまで通り薬剤料が算定できます。

新型コロナウイルス感染症 令和6年4月からの 治療薬の費用について



治療薬：経口薬（ラゲブリオ、パキロビッド、ゾコーバ）、点滴薬（ベクルリー）

3月31日まで

治療薬の薬剤費のうち、上限額を超える部分を公費で負担

【上限額】

3割負担の方	2割負担の方	1割負担の方
9,000円	6,000円	3,000円

※各治療薬共通


4月1日から

- 通常の医療体制に移行し、公費負担は終了します
- 医療費の自己負担割合に応じた、通常の窓口負担になります

医療保険において、毎月の窓口負担(治療薬の費用を含む)について高額療養費制度が設けられており、所得に応じた限度額以上の自己負担は生じません

※ 治療薬は、医師が必要と判断した方に使用されます。
※ 高額療養費制度は、家計に対する医療費の自己負担が重くならないよう、医療機関や薬局の窓口で支払う医療費が1か月(暦月:1日から末日まで)で上限額を超えた場合、その超えた額を支給する制度です。詳細は、厚生労働省のホームページをご覧ください。

【高額療養費制度について】



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

作成: 令和6年3月

徐放性製剤の粉碎投与に関する注意喚起

(厚生労働省 医療事故情報収集等事業第76回報告書 令和6年3月25日より抜粋)

医薬品医療機器総合機構 PMDA 医療安全情報
https://www.pmda.go.jp/ No.65 2023年 3月

PMDA
医療安全情報
(独)医薬品医療機器総合機構

Pmda No.65 2023年 3月

徐放性製剤の取り扱い時の注意について

1 徐放性製剤の性質と粉碎した場合のリスクについて

(事例1) 処方医は、経鼻栄養チューブを挿入している患者に対してニフェジピンCR錠を処方した。看護師は、ニフェジピンCR錠が徐放性製剤であることを認識しておらず、本剤を粉碎して経鼻栄養チューブより投与した。

(事例2) 処方医は、インチュニブ錠が徐放性製剤であることを認識しておらず、「症状に応じて割って調節しながら服用する」よう指示していた。

POINT 安全使用のために注意するポイント

- 徐放性製剤は、有効成分の放出速度等を調節することによる、投与回数の減少、薬効の持続、副作用の低減等を目的として開発された製剤です。
- 製剤の特徴が販売名から読み取れない徐放性製剤が粉碎、分割して投与される事例が繰り返し報告されています。

! 徐放性製剤を粉碎、分割して投与したり、患者が噛み砕いて服用すると、急激に血中濃度が上昇し、重篤な副作用が発現したり、期待する薬効が得られない恐れがあります。

急激な血圧低下 **呼吸抑制** **意識レベル低下**

徐放性製剤のイメージ (例)

遠放層 **徐放層** **遠放性顆粒** **徐放性顆粒**

! 徐放性製剤であることが、販売名から読み取れない場合、誤って粉碎される事例や、分割不可の製剤が分割して投与される事例が多く報告されています。粉碎等の報告が特に多い製剤については、次ページの一覧表を参照してください。粉碎や分割の可否については必ず、添付文書や企業各社が作成している資料等で確認し、薬剤師に確認するようにしてください。

当院で使用している徐放性製剤などをリストアップした「粉碎禁忌一覧表」は別紙の通りですので参考にして下さい。不明な点は、その都度、薬剤師にご相談下さい。

粉砕禁忌一覧表

品目	禁忌理由
アスパラカリウム錠	吸湿性
アデホス顆粒10%	腸溶性（胃酸での分解防止）
アミティーザカプセル	液状内容物
アルファカルシドールカプセル	液状内容物
イコサペント酸エチルカプセル	液状内容物
エソメプラゾールカプセル	腸溶性（胃酸での分解防止）
エブランチルカプセル	徐放性製剤 分割禁（1：2）。但し問い合わせにより分割可※1
塩化カリウム徐放錠	徐放性製剤
オキシコンチンTR錠	徐放性製剤
サインバルタカプセル	腸溶性（胃酸での分解防止）
サラゾスルファピリジン腸溶錠	腸溶性（胃腸障害防止）
セバミットRカプセル	徐放性製剤
タクロリムスカプセル	光に対し不安定なため
テオロング錠	徐放性製剤
デパケンR錠	吸湿性、徐放性製剤
デュタステリド錠	女性には胎児の外生殖器に影響を及ぼす可能性があるため（HD）
ニトロベン錠	舌下錠のため
ニフェジピンCR錠	徐放性製剤
バイアスピリン錠	腸溶性（胃腸障害防止） 但し急性心筋梗塞並びに脳梗塞急性期の初期治療には粉砕することあり
ハイドレアカプセル	抗がん剤（HD）
ピカルタミド錠	抗がん剤（HD）
フェンラーゼ配合カプセル	腸溶性（胃酸での分解防止）
フランドル錠	徐放性製剤
ヘルベッサー錠	徐放性製剤
ヘルベッサーRカプセル	徐放性製剤
メサラジン徐放錠	放出調節製剤
メトトレキサートカプセル	抗リウマチ剤（HD）
メチコバル錠	光で分解
ラベプラゾールNa錠	腸溶性（胃酸での分解防止）
リセドロン酸Na錠	口腔咽頭刺激の可能性あり安全性確保のため
ロトリガ粒状カプセル	液状内容物

HD:危険薬 (Hazardous Drugs)